

第2章 対象事業実施区域及びその周辺の概況

2.1 対象事業実施区域及びその周辺の範囲	2-1
2.2 対象事業実施区域及びその周辺の自然的状況	2-3
2.3 対象事業実施区域及びその周辺の社会的状況	2-35
2.4 環境関係法令等に係る項目	2-63
2.5 生活環境の状況等	2-103

第2章 対象事業実施区域及びその周辺の概況

2.1 対象事業実施区域及びその周辺の範囲

1. 対象事業実施区域及びその周辺の範囲

対象事業実施区域及びその周辺の範囲（以下、「調査対象地域」という。）は、事業の実施による環境影響の及ぶおそれがある範囲が最も広いと考えられる猛禽類（オオタカ）の行動圏（約3 km）を考慮して、対象事業実施区域より概ね4 kmまでの範囲とした。

調査対象地域の範囲は図 2-1-1 に示すとおりである。

2. 地域特性を把握した範囲

地域特性のうち、行政単位でデータが公表されているものについては、調査対象地域に係る市町村等を単位として把握するものとして、対象事業実施区域が位置する浜松市全域及び浜松市天竜区を対象に把握した。

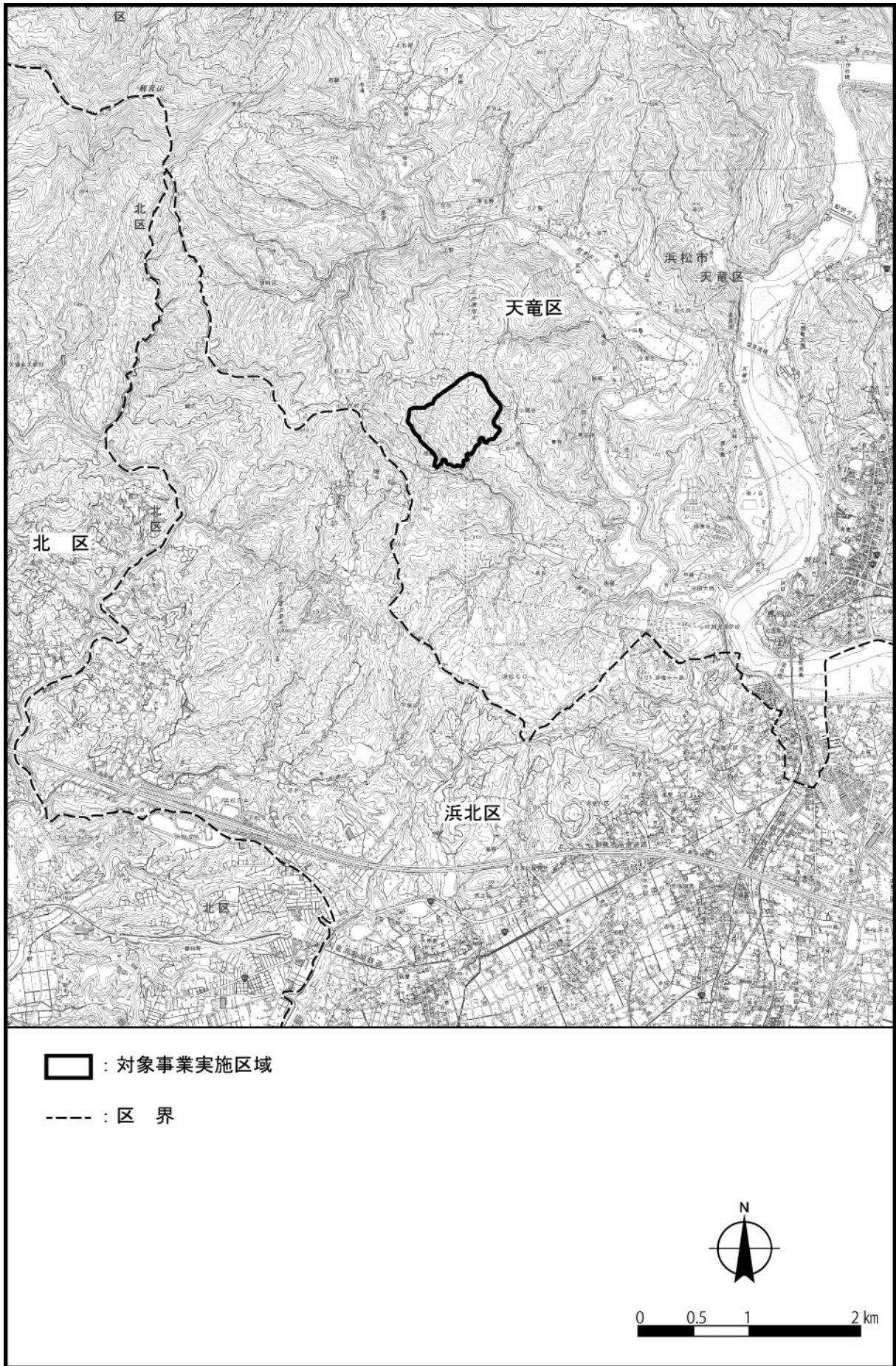


図 2-1-1 調査対象地域及び対象事業実施区域の位置

2.2 対象事業実施区域及びその周辺の自然的状況

1. 気象

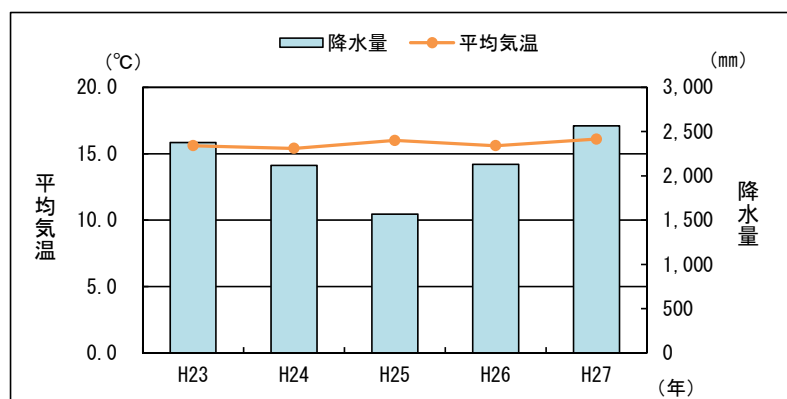
対象事業実施区域に最も近い気象観測所は天竜地域気象観測所(図 2-2-4 参照)である。

天竜地域気象観測所における平成 23 年～平成 27 年の気象概況は表 2-2-1 及び図 2-2-1 に示すとおりであり、平均気温は 15.4℃～16.1℃、最高気温は 36.1℃～39.8℃、最低気温は-1.8℃～-5.6℃、平均風速は 2.3m/s～2.5m/s、降水量は 1,567.0 mm～2,564.5 mmとなっている。

表 2-2-1 気象概況 (平成 23 年～平成 27 年)

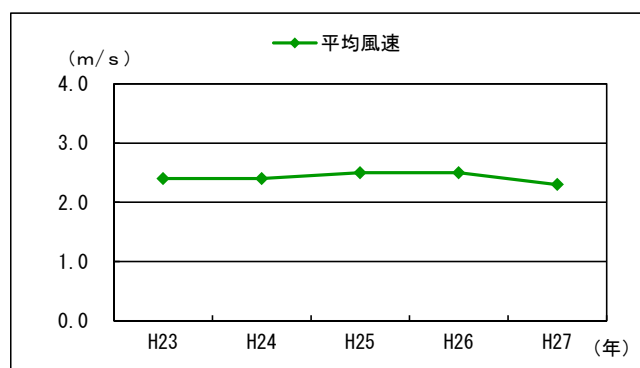
区 分	気 温 (°C)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
	平 均	最 高	最 低		
平成23年	15.6	37.4	-3.7	2.4	2,375.0
平成24年	15.4	37.1	-5.6	2.4	2,117.5
平成25年	16.0	39.8	-3.0	2.5	1,567.0
平成26年	15.6	36.1	-2.3	2.5	2,131.5
平成27年	16.1	37.4	-1.8	2.3	2,564.5

出典：「気象統計情報」(気象庁ホームページ)



出典：「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

図 2-2-1(1) 平均気温及び降水量の経年変化 (平成 23 年～平成 27 年)



出典：「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

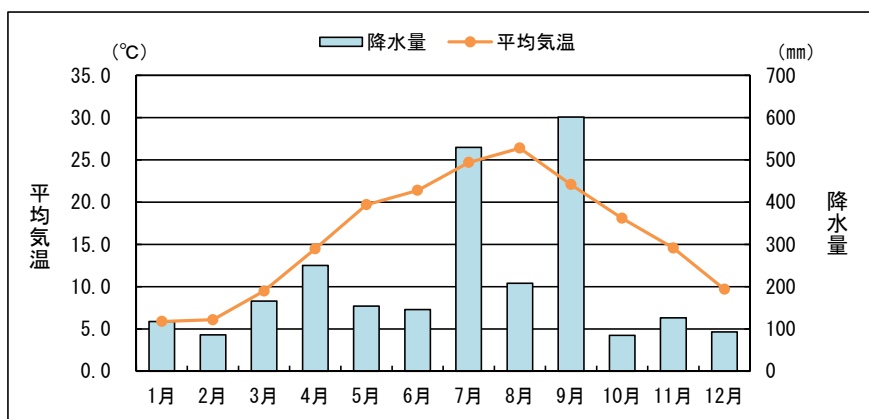
図 2-2-1(2) 平均風速の経年変化 (平成 23 年～平成 27 年)

平成 27 年の月別の気象概況は表 2-2-2 及び図 2-2-2 に、風配図は図 2-2-3 に示すとおりである。最高気温は 7 月の 37.4℃、最低気温は 1 月の -1.8℃、降水量は 9 月の 601.5 mm が最も多くなっている。風速は冬季に強くなる傾向にあり、風向は年間を通じて北北西～北の風が卓越している。

表 2-2-2 気象概況（平成 27 年）

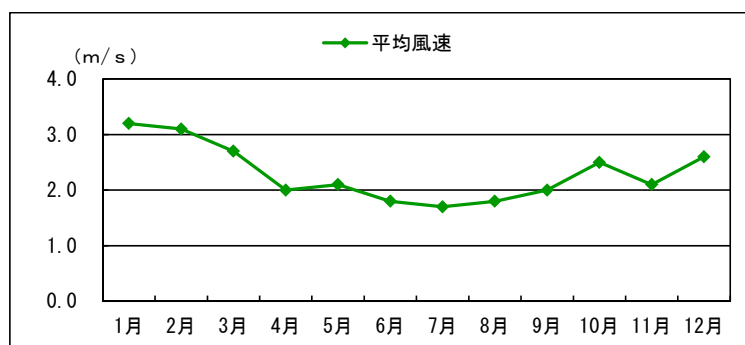
区 分	気 温 (°C)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
	平 均	最 高	最 低		
1月	5.9	16.6	-1.8	3.2	117.5
2月	6.1	17.7	-1.6	3.1	86.0
3月	9.5	21.9	-1.0	2.7	166.0
4月	14.5	26.3	6.1	2.0	250.5
5月	19.7	33.4	11.9	2.1	154.0
6月	21.4	30.2	13.9	1.8	146.0
7月	24.7	37.4	18.3	1.7	529.5
8月	26.4	35.2	20.8	1.8	208.5
9月	22.1	31.6	15.9	2.0	601.5
10月	18.1	27.8	9.9	2.5	85.0
11月	14.6	23.5	3.8	2.1	126.5
12月	9.7	22.3	-1.4	2.6	93.5

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）



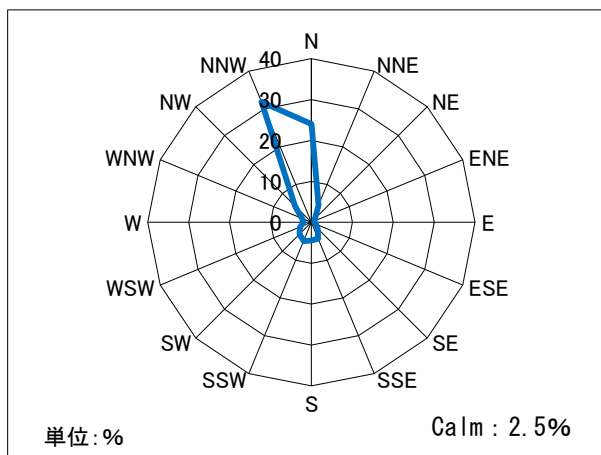
出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）

図 2-2-2(1) 平均気温及び降水量の概況（平成 27 年）



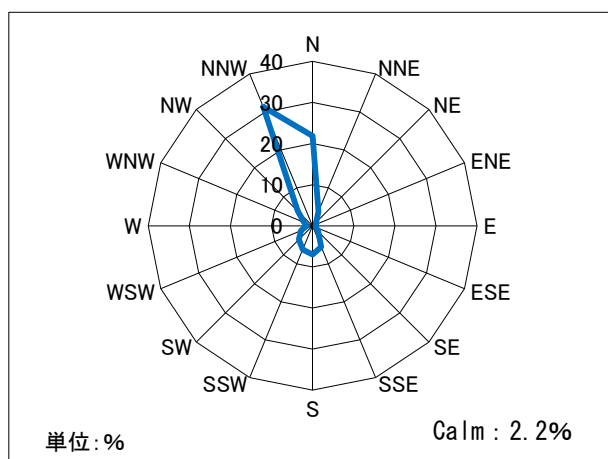
出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）

図 2-2-2(2) 平均風速の概況（平成 27 年）



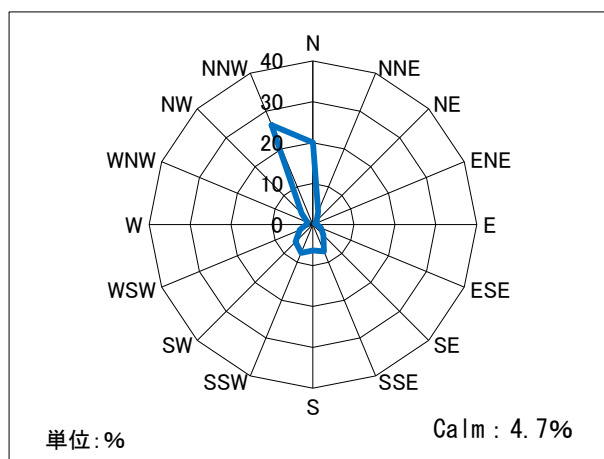
注) Calmは風速0.4m/s以下を示す。

[年 間]



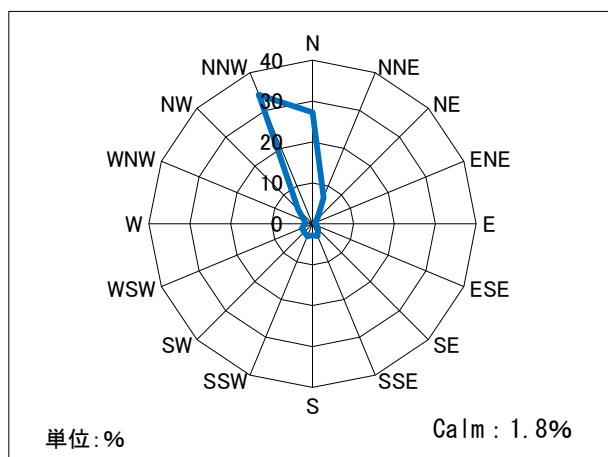
注) Calmは風速0.4m/s以下を示す。

[春季 (3月～5月)]



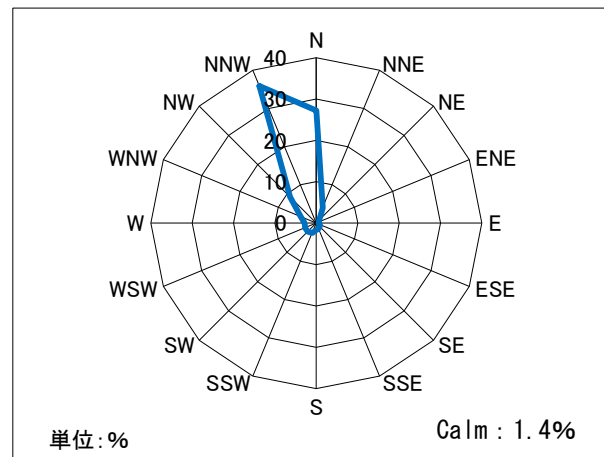
注) Calmは風速0.4m/s以下を示す。

[夏季 (6月～8月)]



注) Calmは風速0.4m/s以下を示す。

[秋季 (9月～11月)]



注) Calmは風速0.4m/s以下を示す。

[冬季 (12月～2月)]

出典: 「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

図 2-2-3 風配図 (平成 27 年)

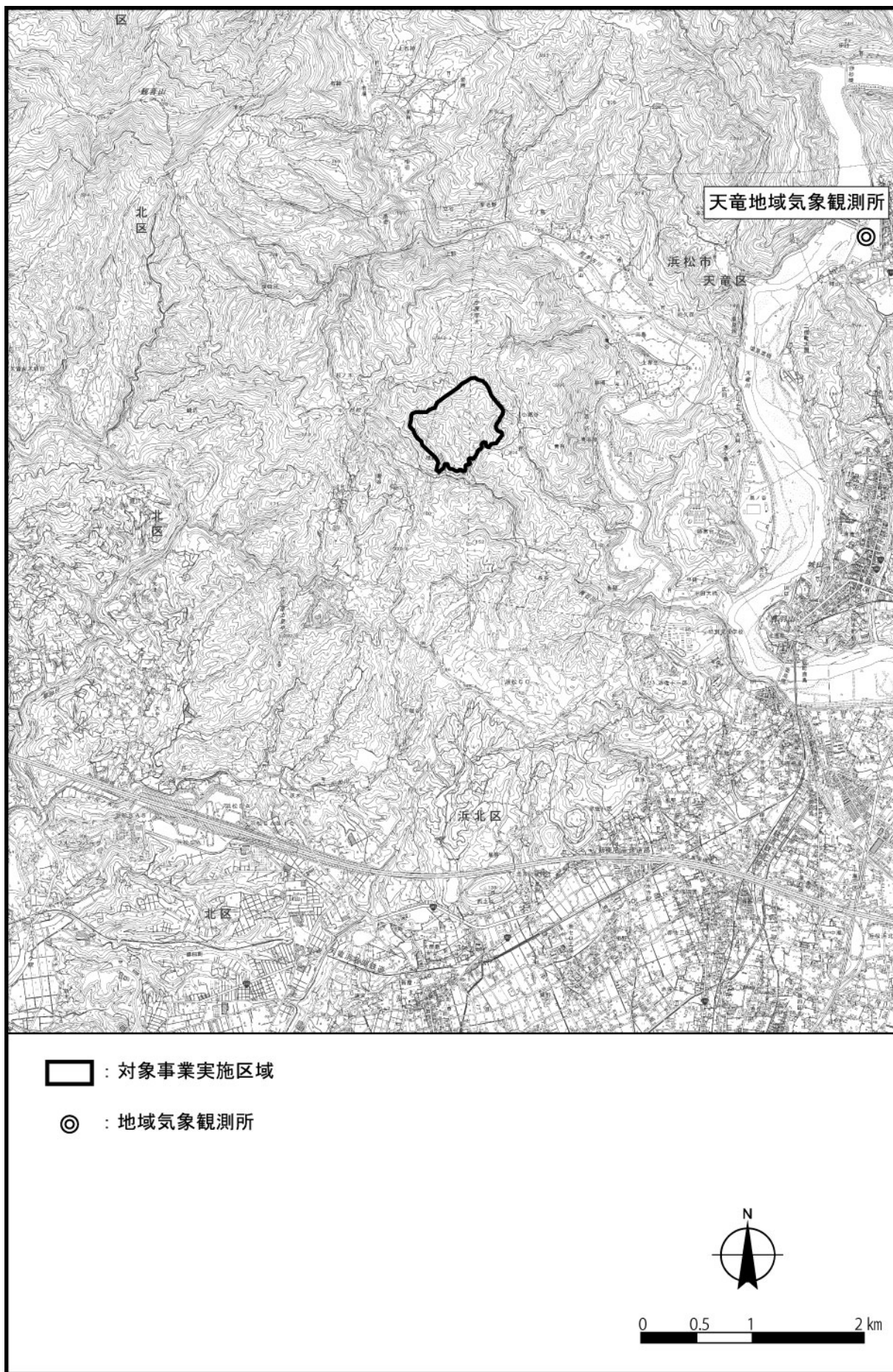


図 2-2-4 気象観測所の位置

2. 水象

(1) 河川

調査対象地域における主な河川の概況は表 2-2-3 に、河川図は図 2-2-6 に示すとおりである。

調査対象地域には一級河川の天竜川、米沢川、阿多古川、長石川及び二俣川、二級河川の都田川及び灰ノ木川が流れている。

対象事業実施区域の東側 1 km 近くを阿多古川（一級河川）が、南東側 1.9km 近くには長石川（一級河川）が流れている。

表 2-2-3 河川の概況

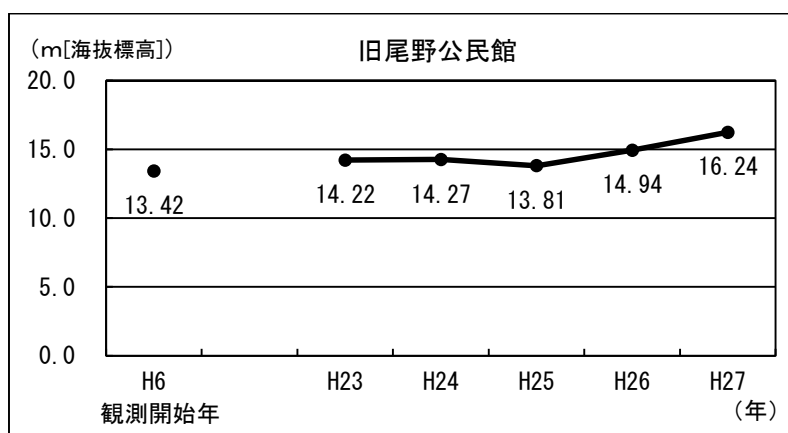
水系	河川名	河川延長 (m)	区分
天竜川	天竜川	95,350	一級河川
	米沢川	1,200	
	阿多古川	22,620	
	長石川	1,800	
	二俣川	20,380	
都田川	都田川	49,940	二級河川
	灰ノ木川	4,260	

出典：「しずおか河川ナビゲーション」（静岡県ホームページ）

(2) 地下水

調査対象地域における地下水位の観測結果は図 2-2-5 に示すとおりである。

調査対象地域では浜松市浜北区の旧尾野公民館（図 2-2-6 参照）で地下水位の観測が行われており、過去 5 年間（平成 23 年～平成 27 年）の地下水位は僅かに上昇傾向を示している。



出典：「浜松市の環境の現状と対策（平成 28 年度版）」（平成 28 年、浜松市）

図 2-2-5 地下水位の経年変化

(3) 湧水地

調査対象地域の湧水地は図 2-2-6 に示すとおりである。

調査対象地域には 3 箇所（清瀧寺、八幡神社、岩水寺赤池）の湧水地がある。

なお、対象事業実施区域及びその周辺に湧水地として特定された箇所はない。

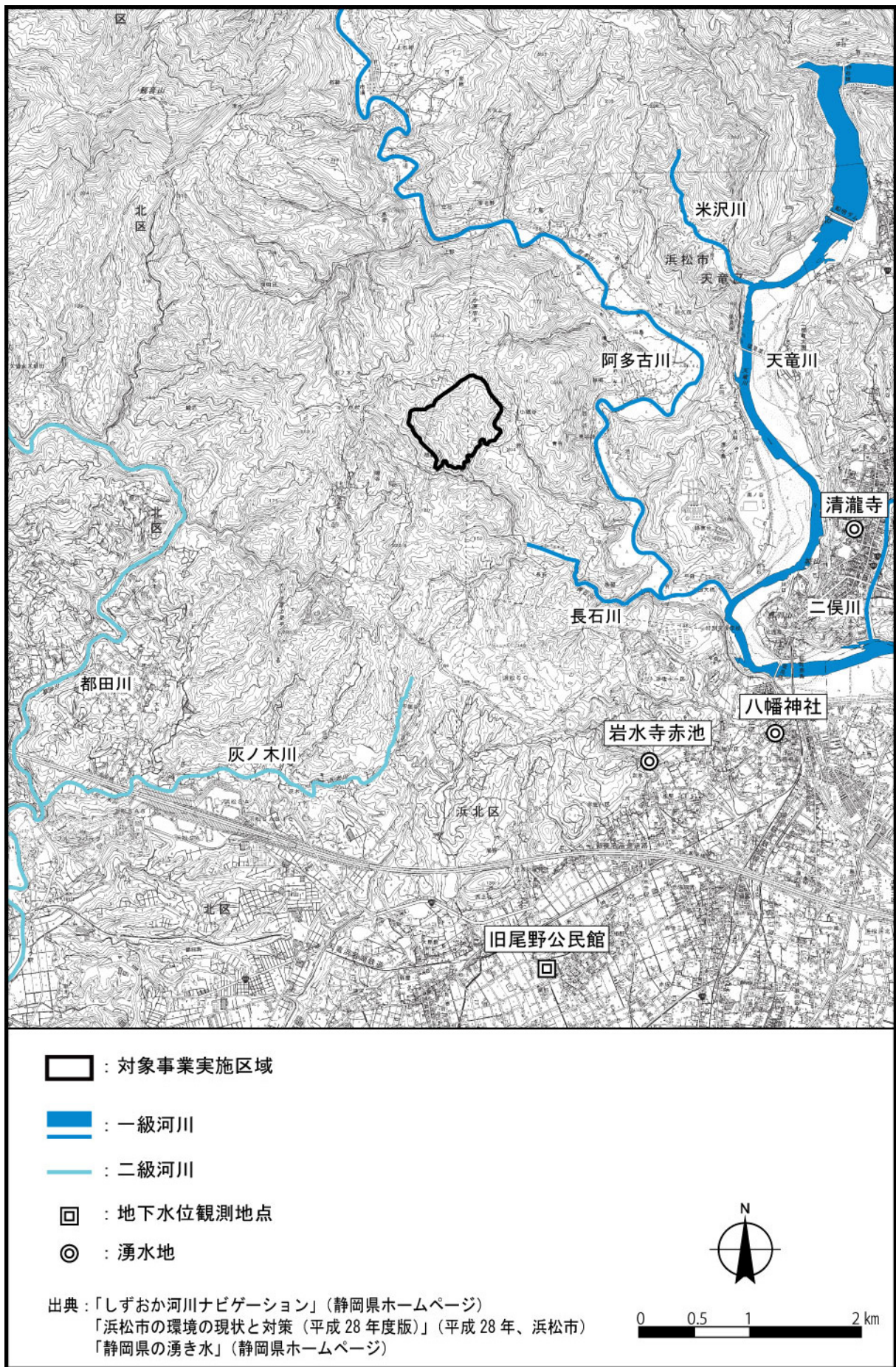


図 2-2-6 河川、地下水位観測地点及び湧水地の位置

3. 地形の状況

調査対象地域の地形分類は図 2-2-7 に示すとおりである。

調査対象地域の地形は、北側の大部分が中起伏山地及び小起伏山地からなる山地であり、南側の大部分は丘陵地となっている。また、天竜川及び阿多古川沿いに河原及び谷底平野がみられる。

対象事業実施区域の地形分類は大部分が小起伏山地であり、対象事業実施区域南東側の一部が谷底平野（Ⅰ）（砂礫質）となっている。

調査対象地域における重要な地形は、表 2-2-4 及び図 2-2-8 に示すとおりであり、非火山性孤峰（観音山）、峡谷・溪谷（都田川）及び河成段丘（三方原）がある。

表 2-2-4 重要な地形の状況

No.	区分	名称	選定基準
①	非火山性孤峰	観音山	・第3回自然環境保全基礎調査
②	峡谷・溪谷	都田川	・第3回自然環境保全基礎調査
③	河成段丘	三方原	・第3回自然環境保全基礎調査 ・日本の地形レッドデータブック

出典：「第3回自然環境保全基礎調査（静岡県自然環境情報図）」（平成元年、環境庁）
「日本の地形レッドデータブック第2集-保全すべき地形-」
（平成14年、小泉武栄、清水賢人）

4. 地質の状況

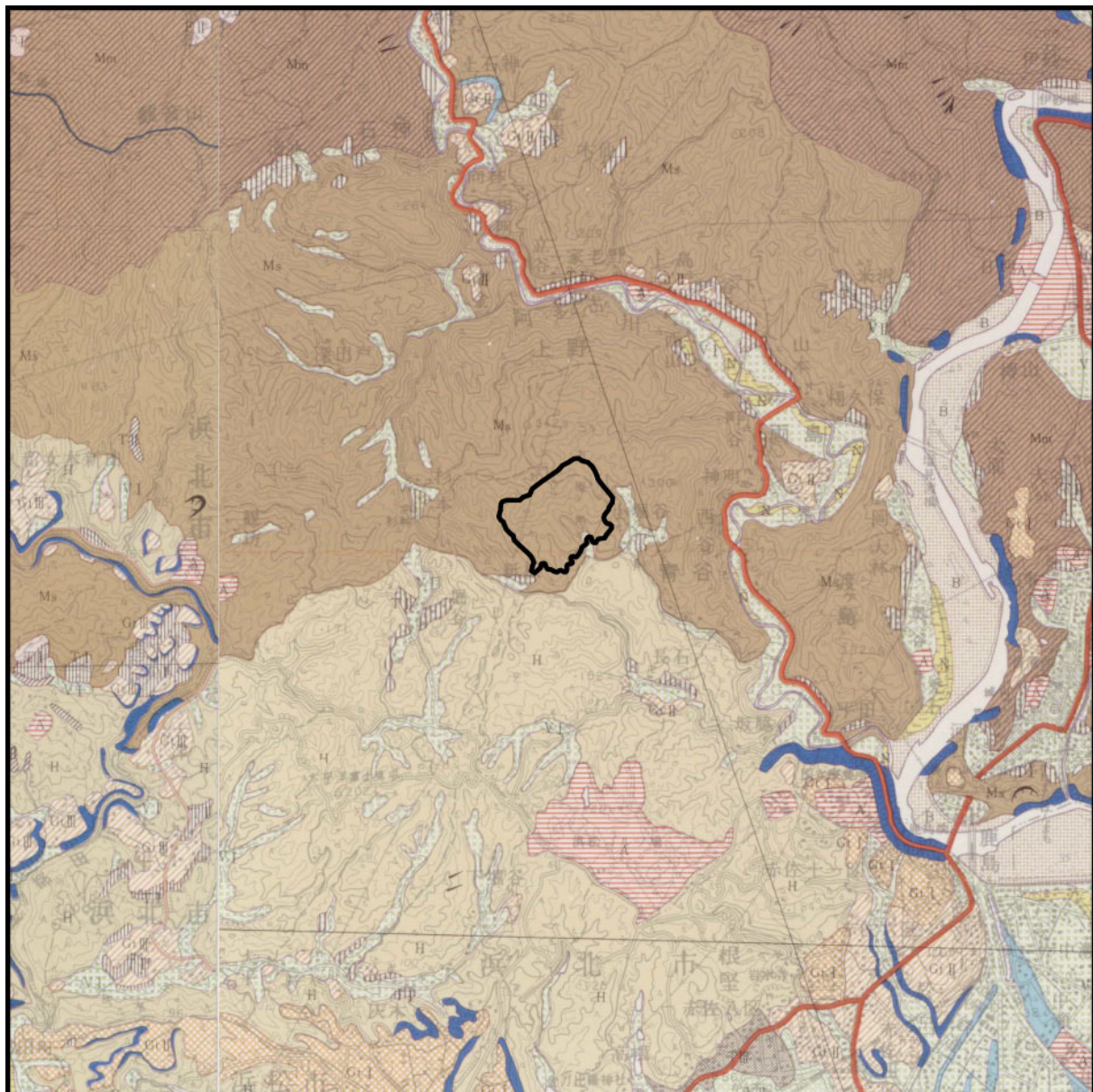
調査対象地域の表層地質は図 2-2-9 に示すとおりである。

調査対象地域の表層地質は主に変成岩類、固結岩類、段丘堆積物及び未固結堆積物である。

対象事業実施区域の表層地質は大部分が固結岩類のチャート・粘板岩・輝緑凝灰岩であり、対象事業実施区域北側の一部が変成岩類の輝緑岩・はんれい岩となっている。

なお、調査対象地域には、重要な地質及び地質に係る特異な自然現象はない。

（出典：「第3回自然環境保全基礎調査（静岡県自然環境情報図）」（平成元年、環境庁）
「日本の地形レッドデータブック第2集-保全すべき地形-」（平成14年、小泉武栄、清水賢人））



□ : 対象事業実施区域

山地

M_中 : 中起伏山地

M_小 : 小起伏山地

丘陵地

H : 丘陵地

台地

G_中 : 砂礫台地 (I)
(中位段丘面)

G_低 : 砂礫台地 (II)
(低位段丘面)

低地

V_I : 谷底平野 (I)
(砂礫質)

V_{II} : 谷底平野 (II)
(泥質)

F_I : 崖錘 (I)
(山麓堆積緩斜面)

F_{II} : 崖錘 (II)
(土石流性堆積物)

N : 自然堤防

B : 河原

その他

A : 人工改変地

~ : 崖

~ : 旧河道

~ : 崩壊地形

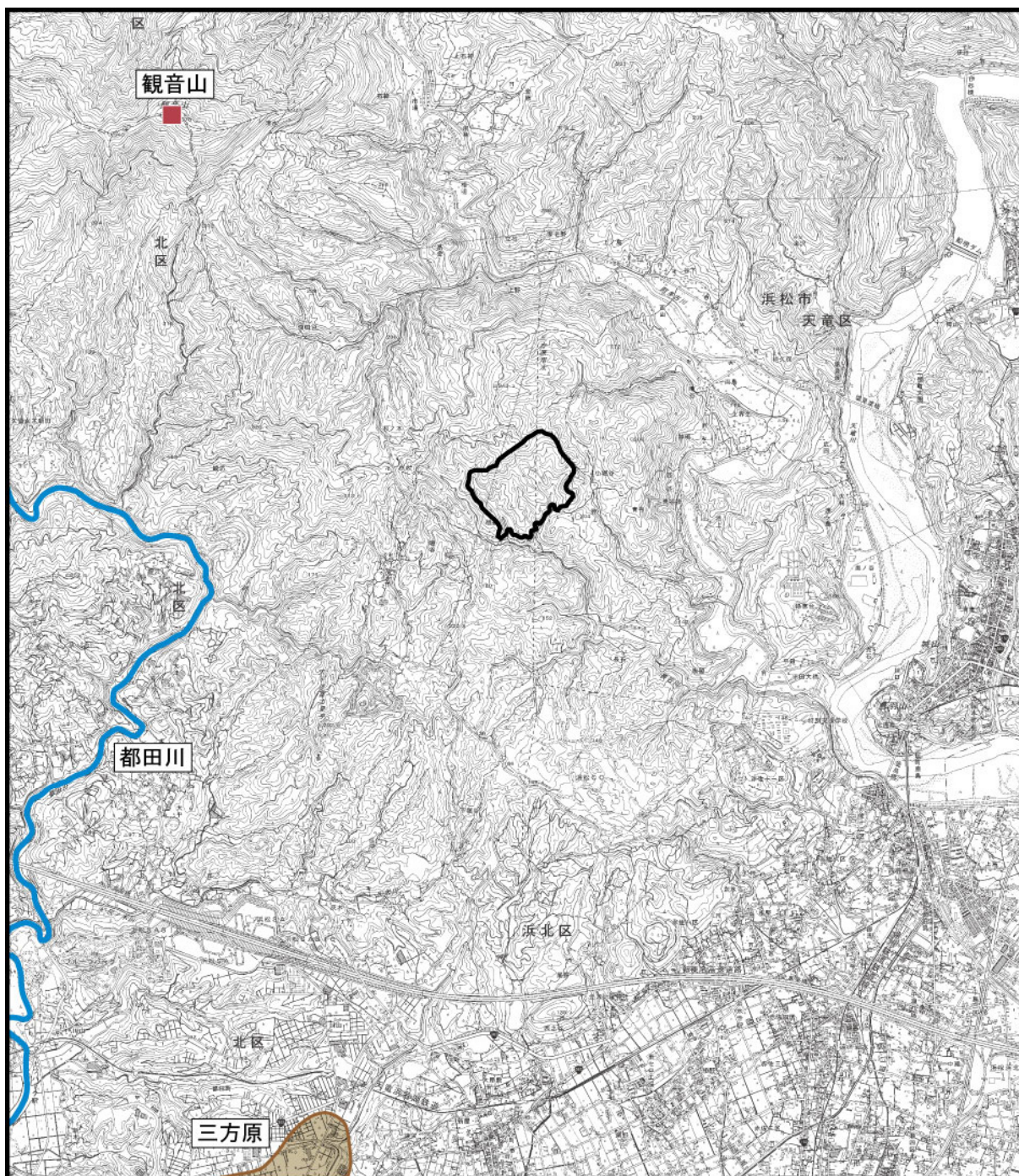
— : 国道

出典 : 「地形分類図 (天竜)」(昭和 61 年、静岡県)
「地形分類図 (三河大野・豊橋・田口)」(昭和 62 年、静岡県)



0 0.5 1 2 km

図 2-2-7 地形分類図



□ : 対象事業実施区域

■ : 非火山性孤峰

— : 峡谷・溪谷

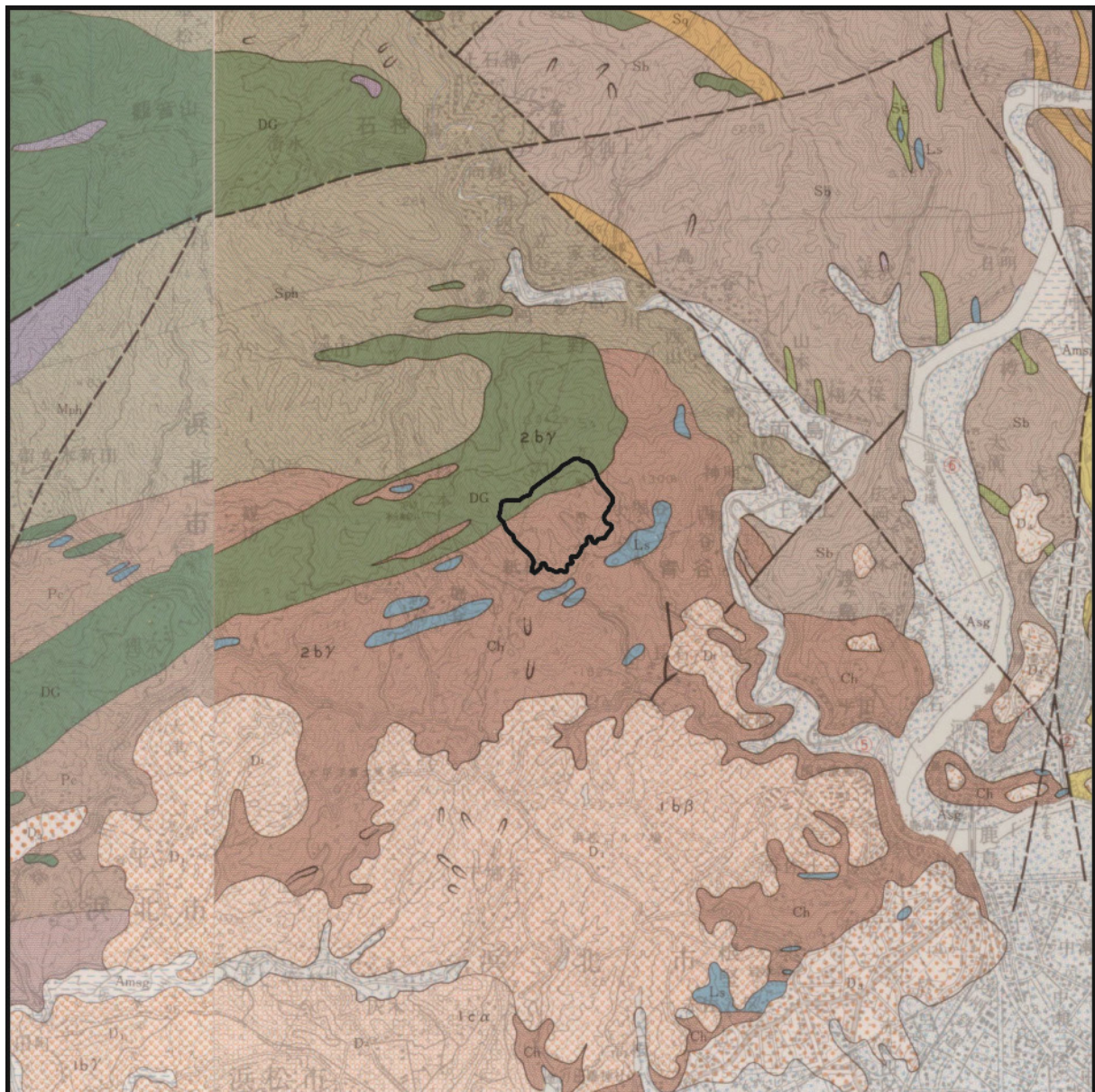
■ : 河成段丘

出典：「第3回自然環境保全基礎調査（静岡県自然環境情報図）」
 （平成元年、環境庁）
 「日本の地形レッドデータブック第2集 - 保全すべき地形 -」
 （平成14年、小泉武栄、清水賢人）



0 0.5 1 2 km

図 2-2-8 重要な地形分布図



□ : 対象事業実施区域

未固結堆積物

Amsg : 砂泥礫互相

Asg : 砂礫

段丘堆積物

D₁ : 砂礫 (未来分段丘)

D₂ : 砂礫 (高位段丘)

半固結堆積物

D₃ : 未来分段丘砂泥礫堆積物

固結岩類

K₁ : 礫岩・砂岩・シルト岩

Pc : チャート・粘板岩

Ch : チャート・粘板岩・輝緑凝灰岩

Ls : 石灰岩

S : 蛇紋岩類

変成岩類

Mph : 千枚岩類

Mr : 圧碎岩類

DC : 輝緑岩・はんれい岩

Sph : 黒色・緑色千枚岩

Sg : 緑色片岩類

Sb : 黒色片岩類

Sq : 石英片岩類

— : 断層および推定断層

∩ : 崩壊地

出典 : 「表層地質図 (天竜)」 (昭和 61 年、静岡県)

「表層地質図 (三河大野・豊橋・田口)」 (昭和 62 年、静岡県)



図 2-2-9 表層地質図

5. 植物、動物、生態系

(1) 動物

表 2-2-5 に示す既存文献を収集し、調査対象地域の注目すべき種（動物）の生息状況について把握した。注目すべき種の生息状況は、既存文献による生息記録のうち、調査対象地域を含むメッシュ情報や、調査対象地域を含む市区町名等の情報を対象として、調査対象地域において生息の可能性のある種を抽出した。

なお、注目すべき種の選定基準は、表 2-2-6 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺における注目すべき種の生息状況は、表 2-2-7～表 2-2-13 に示すとおりである。

表 2-2-5 動物相の把握に用いた既存文献

No.	文献名	注目すべき種の抽出範囲
①	まもりたい静岡県の野生生物 —県版レッドデータブック— (動物編) (平成16年、静岡県)	①生息、分布等の位置情報がメッシュで記載されている種については、調査対象地域を含むメッシュにおいて記録がある種を抽出した。 ②生息、分布等の位置情報がメッシュで記載されていない種については、以下の記載に基づき抽出した。 ・浜北市、天竜市（文献発行当時の市名）において記録がある種 ・「県内全域」、「県西部」、「県西部の山間地」、「天竜川流域」等の調査対象地域が生息・分布域に含まれると想定される記載がある種
②	平成21・22年度浜松市生物多様 性情報整備事業 (平成21年、22年、浜松市)	以下に示す対象事業実施区域周辺の地区において生息、分布の記録がある種を抽出した。 ・浜松市天竜区青谷、上野、米沢、両島、緑恵台、渡ヶ島地区
③	(仮称)天竜阿多古川カントリー クラブ造成事業に係る環境 影響評価書 (平成7年、(株)日交總本社)	天竜阿多古川カントリークラブ造成事業に係る環境影響評価において調査を実施した小堀谷市有林（前掲図1-3-1参照）及びその周辺において生息、分布の記録がある種を抽出した。

表 2-2-6 注目すべき種の選定基準

No.	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法 (昭和25年、法律第214号)	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の 保存に関する法律 (平成4年、法律第75号)	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	静岡県文化財保護条例 (昭和36年、静岡県条例第23号)	県天：県指定天然記念物
④	静岡県希少野生動植物種保護条例 (平成22年、静岡県条例第37号)	指定：指定希少野生動植物
⑤	浜松市文化財保護条例 (昭和52年、浜松市条例第28号)	市天：市指定天然記念物
⑥	環境省レッドリスト2015 (平成27年、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑦	まもりたい静岡県の野生生物 —県版 レッドデータブック— (動物編) (平成16年、静岡県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N-I：要注目種（現状不明） N-II：要注目種（分布上注目種等） N-III：要注目種（部会注目種）

①哺乳類

調査対象地域において生息の可能性のある哺乳類の注目すべき種は、表 2-2-7 に示すとおりであり、ニホンリス、ムササビ、カモシカ等、3目3科5種があげられる。

表 2-2-7 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ								NT
2			キクガシラコウモリ								NT
3	ネズミ	リス	ニホンリス								N-III
4			ムササビ								NT
5	ウシ	ウシ	カモシカ	特天							
計	3目	3科	5種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	4種

②鳥類

調査対象地域において生息の可能性のある鳥類の注目すべき種は、表 2-2-8 に示すとおりであり、ヤマドリ、チュウサギ、アカショウビン、サンコウチョウ等、11目19科29種があげられる。

表 2-2-8 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	キジ	キジ	ヤマドリ								NT
2	カモ	カモ	オシドリ								DD
3			トモエガモ								VU
4	ペリカン	サギ	ヨシゴイ								NT
5			チュウサギ								NT
6	ツル	クイナ	クイナ								NT
7	チドリ	チドリ	タゲリ								NT
8			イカルチドリ								NT
9		シギ	ヤマシギ								DD
10		カモメ	コアジサシ		国際						VU
11	タカ	タカ	ハチクマ								NT
12			ハイタカ								VU
13			オオタカ		国内						NT
14			サシバ								VU
15			クマタカ		国内						EN
16	フクロウ	フクロウ	フクロウ								NT
17			アオバズク								VU
18	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン								EN
19			ヤマセミ								VU
20		ブッポウソウ	ブッポウソウ								EN
21	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ								NT
22	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内						VU
23	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内						EN
24		サンショウクイ	サンショウクイ								VU
25		カササギヒタキ	サンコウチョウ								NT
26		ツバメ	ロシアカツバメ								NT
27		ヒタキ	ノビタキ								N-II
28			ロシアメビタキ								VU
29		ホオジロ	ミヤマホオジロ								NT
計	11目	19科	29種	0種	5種	0種	0種	0種	0種	14種	27種

③爬虫類

調査対象地域において生息の可能性のある爬虫類の注目すべき種は、表 2-2-9 に示すとおりであり、ニホンイシガメ、ニホントカゲの 2 目 2 科 2 種があげられる。

表 2-2-9 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ							NT	
2	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ								N-II
計	2目	2科	2種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	1種

④両生類

調査対象地域において生息の可能性のある両生類の注目すべき種は、表 2-2-10 に示すとおりであり、アカハライモリ、アズマヒキガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、モリアオガエルの 2 目 4 科 5 種があげられる。

表 2-2-10 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（両生類）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	有尾	イモリ	アカハライモリ							NT	
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル								N-III
3		アカガエル	トノサマガエル							NT	N-III
4			ナゴヤダルマガエル							EN	CR
5		アオガエル	モリアオガエル								NT
計	2目	4科	5種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	3種	4種

⑤魚類

調査対象地域において生息の可能性のある魚類の注目すべき種は、表 2-2-11 に示すとおりであり、カワムツ、タカハヤ、ホトケドジョウ、カジカ等、8 目 9 科 17 種があげられる。

表 2-2-11 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（魚類）

No.	目名	科名	種名	選定基準										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類							VU	EN	EN		
2			ウナギ	ニホンウナギ							EN			
3				オオウナギ								N-III	N-III	
4	コイ	コイ	カワムツ								N-II	N-II		
5			タカハヤ									N-II		
6			ドジョウ	ドジョウ								DD		
7				シマドジョウ									N-II	N-II
8				ホトケドジョウ								EN	VU	VU
9				トウカイナガレホトケドジョウ								EN	NT	NT
10	ナマズ	アカザ	アカザ							VU	EN	EN		
11	サケ	サケ	アマゴ							NT	N-II	N-II		
12	ダツ	メダカ	メダカ類							VU	VU	NT		
13	カサゴ	カジカ	カマキリ							VU	NT	NT		
14			カジカ								NT	NT	EN	
15			ウツセミカジカ（回遊型）								EN	VU	VU	
16	スズキ	ハゼ	オカメハゼ								N-III	N-III		
17			カワヨシノボリ									N-II		
計	8目	9科	17種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	11種	15種	13種		

注) スナヤツメ類は、「スナヤツメ北方種」及び「スナヤツメ南方種」に、メダカ類は、「キタノメダカ」及び「ミナミメダカ」等に分類されるが、既存資料の記載内容からは、種の特定に至らなかったため、それぞれ「スナヤツメ類」、「メダカ類」と記載した。

⑥昆虫類

調査対象地域において生息の可能性のある昆虫類の注目すべき種は、表 2-2-12 に示すとおりであり、タベサナエ、コオイムシ、ギフチョウ、ヘイケボタル等、6目24科49種があげられる。

表 2-2-12 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
1	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ							NT	VU			
2			オオイトトンボ									CR		
3		モノサシトンボ	グンバイトンボ								NT	CR		
4			カワトンボ	ニホンカワトンボ								EN		
5		サナエトンボ	ホシサナエ	ホシサナエ								NT		
6				タベサナエ							NT	VU		
7				コサナエ									NT	
8		エゾトンボ	トラフトンボ	トラフトンボ								VU		
9				エゾトンボ									N-III	
10		トンボ	ヨツボシトンボ	ヨツボシトンボ								NT		
11				ハッチョウトンボ									EN	
12				キトンボ									CR	
13				オオキトンボ								EN	CR	
14	バッタ	コオロギ	オオオカメコオロギ								DD			
15			クチナガコオロギ									N-II		
16		イナゴ	セグロイナゴ								N-III			
17	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ							NT	N-III			
18			タガメ								VU	DD		
19	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ								NT	N-II		
20			コキマダラセセリ									N-II		
21			オオチャバネセセリ									VU		
22		シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	ウラナミアカシジミ									VU	
23				ミヤマシジミ								EN	NT	
24				クロシジミ									EN	VU
25				ベニモンカラスシジミ									NT	VU
26				クロツバメシジミ									NT	VU
27			シルビアシジミ								EN	CR		
28		タテハチョウ	コムラサキ	コムラサキ									N-II	
29				ウラギンスジヒョウモン									VU	
30				オオムラサキ									NT	N-III
31		アゲハチョウ		ギフチョウ						市天	VU	NT		
32		ジャノメチョウ	ヒメヒカゲ	ヒメヒカゲ								EN	CR	
33				クロヒカゲモドキ									EN	NT
34	ウラナミジャノメ											VU	VU	
35	ヤガ			コシロシタバ								NT	N-III	
36	コウチュウ	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ								NT	DD		
37			ゲンゴロウ									VU	VU	
38		ミズスマシ	ヒメミズスマシ								EN	DD		
39			ミズスマシ									VU	DD	
40		ガムシ	ガムシ								NT	NT		
41		コガネムシ	ヒゲコガネ	オオフタホシマグソコガネ									N-I	
42				ヒゲコガネ										DD
43		ホタル	ヘイケボタル										NT	
44		カミキリムシ	アサカミキリ	ヒメヒロウドカミキリ								NT	DD	
45				アサカミキリ									VU	N-III
46	ハムシ	ツヤネクイハムシ	ガガブタネクイハムシ									NT		
47			ツヤネクイハムシ										DD	
48	ハチ	アリ	トゲアリ									VU		
49			スズメバチ	ヤマトアシナガバチ									DD	
計	6目	24科	49種	0種	0種	0種	0種	1種		28種	46種			

⑦貝類

調査対象地域において生息の可能性のある貝類の注目すべき種は、表 2-2-13 に示すとおりであり、マルタニシ、ミカワギセル、イボイボナメクジ等、7目 15科 24種があげられる。

表 2-2-13 調査対象地域において生息の可能性のある注目すべき種（貝類）

No.	目名	科名	種名	選定基準								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ベニゴマオカタニシ							VU		
2	原始紐舌	タニシ	マルタニシ							VU	NT	
3			オオタニシ							NT	NT	
4	盤足	カワニナ	クロダカワニナ							NT	NT	
5	基眼	モノアラガイ	モノアラガイ							NT	NT	
6		ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ							DD	NT	
7			ヒラマキガイモドキ							NT	NT	
8	柄眼	キバサナギガイ	クチマガリスナガイ							VU	NT	
9			キバサナギガイ							CR+EN	NT	
10		マキノメガイ	ヒラドマルナタネ								NT	
11		ナタネガイモドキ	ナタネガイモドキ								NT	
12		キセルガイ	オオギセル								NT	
13			ミカワギセル								NT	
14			オクガタギセル								NT	NT
15			ツメギセル								NT	
16			エルバリギセル								DD	
17		ナメクジ	イボイボナメクジ								NT	DD
18	ベッコウマイマイ	カサネシトラガイ								NT	NT	
19	ニッポンマイマイ	ヒメビロウドマイマイ								VU		
20	オナジマイマイ	オモイガケナマイマイ								CR+EN	CR	
21		ミヤマヒダリマキマイマイ								VU	NT	
22		イシマキシロマイマイ								VU	NT	
23	イシガイ	イシガイ	イシガイ								NT	
24	マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ							NT		
計	7目	15科	24種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	22種	17種	

(2) 植物

①植物相

表 2-2-14 に示す既存文献を収集し、調査対象地域の注目すべき種（植物）の生育状況について把握した。注目すべき種の生育状況は、既存文献による生育記録のうち、調査対象地域を含むメッシュ情報や、調査対象地域を含む市区町名等の情報を対象として、調査対象地域において生育の可能性のある種を抽出した。

なお、注目すべき種の選定基準は、表 2-2-15 に示すとおりである。

調査対象地域において生育の可能性のある注目すべき種は、表 2-2-16 に示すとおりであり、カタクリ、エビネ、キンラン等、71 科 181 種があげられる。

表 2-2-14 植物相の把握に用いた既存文献

No.	文献名	注目すべき種の抽出範囲
①	まもりたい静岡県の野生生物 — 県版レッドデータブック （植物編） （平成16年、静岡県）	①生育、分布等の位置情報がメッシュで記載されている種については、調査対象地域を含むメッシュにおいて記録がある種を抽出した。 ②生育、分布等の位置情報がメッシュで記載されていない種については、以下の記載に基づき抽出した。 ・浜北市、天竜市（文献発行当時の市名）において記録がある種 ・「県内全域」、「県西部」、「県西部の山間地」、「天竜川流域」等の調査対象地域が生育・分布域に含まれると想定される記載がある種
②	平成21・22 年度浜松市生物多様 性情報整備事業 （平成21年、22年、浜松市）	以下に示す対象事業実施区域周辺の地区において生育、分布の記録がある種を抽出した。 ・浜松市天竜区青谷、上野、米沢、両島、緑恵台、渡ヶ島地区
③	（仮称）天竜阿多古川カントリー クラブ造成事業に係る環境 影響評価書 （平成7年、（株）日交總本社）	天竜阿多古川カントリークラブ造成事業に係る環境影響評価において調査を実施した小堀谷市有林（前掲図1-3-1参照）及びその周辺において生育、分布の記録がある種を抽出した。

表 2-2-15 注目すべき種の選定基準

No.	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法 （昭和25年、法律第214号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保 存に関する法律 （平成4年、法律第75号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	静岡県文化財保護条例 （昭和36年、静岡県条例第23号）	県天：県指定天然記念物
④	静岡県希少野生動植物種保護条例 （平成22年、静岡県条例第37号）	指定：指定希少野生動植物
⑤	浜松市文化財保護条例 （昭和52年、浜松市条例第28号）	市天：市指定天然記念物
⑥	環境省レッドリスト2015 （平成27年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A類 EN：絶滅危惧 I B類 VU：絶滅危惧 II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑦	まもりたい静岡県の野生生物 — 県版 レッドデータブック —（植物編） （平成16年、静岡県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A類 EN：絶滅危惧 I B類 VU：絶滅危惧 II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N-I：要注目種（現状不明） N-II：要注目種（分布上注目種等） N-III：要注目種（部会注目種）

表 2-2-16(1) 調査対象地域において生育の可能性のある注目すべき種

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	マツバラシ	マツバラシ							NT	VU
2	ハナヤスリ	ハマハナヤスリ								N-III
3	コケシノブ	コケホラゴケ							NT	
4		チチブホラゴケ								N-III
5	ホングウシダ	エダウチホングウシダ								N-III
6	シシラン	タキミシダ							EN	VU
7	イノモトソウ	アイコハチジョウシダ								VU
8	チャセンシダ	デンリュウヌリトラノオ							VU	N-III
9		ヒノキシダ								VU
10		オクタマシダ							VU	
11		ミサクボシダ								N-II
12		コタニワタリ								N-III
13		ハヤマシダ								N-II
14	オンシダ	ツクシイワヘゴ								N-III
15		タカサゴシダ							NT	N-II
16		ヌカイタチシダモドキ								N-III
17		アツキノヌカイタチシダマガイ								VU
18	ヒメシダ	テツホシダ								N-III
19		ミゾシダモドキ								N-III
20	メシダ	ビッチュウヒカゲワラビ								N-II
21		ウスバミヤマノコギリシダ								N-III
22		コガネシダ								EN
23	ウラボシ	ツノダシクリハラン								N-II
24		アオネカズラ								N-III
25	アカウキクサ	アカウキクサ							EN	VU
26		オオアカウキクサ							EN	NT
27	カバノキ	サクラバハノキ							NT	NT
28		ハシバミ								N-I
29	クワ	カラハナソウ								N-III
30	タデ	ヤナギヌカボ							VU	NT
31	ナデシコ	ヒゲネワチガイソウ								N-III
32	アカザ	ハマアカザ								N-I
33		イソボウキギ								N-I
34	クスノキ	バリバリノキ								N-III
35		ホソバタブ								DD
36	キンボウゲ	イチリンソウ								N-III
37		キクザキイチゲ								N-III
38		アズマイチゲ								N-III
39		カザグルマ							NT	VU
40		コカラマツ								N-III
41	ツツラフジ	ハスノハカズラ								N-III
42	スイレン	ジュンサイ								NT
43	ウマノズクサ	ウスバサイシン								N-III
44		カギガタアオイ							EN	VU
45		デンリュウカンアオイ								DD
46	ボタン	ヤマシャクヤク							NT	NT
47	モウセンゴケ	イシモチソウ							NT	VU
48	ケシ	ヤマキケマン								N-I
49	ベンケイソウ	ツメレンゲ							NT	NT
50	ユキノシタ	キバナハナネコノメ							NT	NT
51		ミカワチャルメルソウ								N-II
52		タコノアシ							NT	NT
53	バラ	カワラサイコ								N-III
54		ヒロハノカワラサイコ							VU	N-I
55	マメ	モメンツル								N-I
56		ミヤマトベラ								VU
57		イヌハギ							VU	EN
58	ヒメハギ	ヒナノカンザシ								VU
59	ツゲ	ツゲ								N-III
60	スマレ	ヒゴスミレ								N-III
61		フジスミレ								N-I
62	ミツハギ	ミズマツバ							VU	NT
63	アカバナ	ウスゲチヨウジタデ							NT	NT
64	セリ	ドクゼリ								N-I
65		カワラボウフウ								N-I
66	ツツジ	カイナンサラサドウダン								VU
67		キョウマルシャクナゲ							VU	VU
68		エンジュウシャクナゲ							VU	NT
69		シブカワツツジ							VU	NT
70	ヤブコウジ	オオツルコウジ							EN	EN
71	ハイノキ	クロミノニシゴリ								NT
72	マチン	ヒメナエ							VU	VU
73	リンドウ	イヌセンブリ							VU	NT
74	ミツガシワ	ミツガシワ								N-II
75	ガガイモ	クサナギオゴケ							VU	NT
76		スズサイコ							NT	NT
77	アカネ	ヒロハコンロンカ								N-II
78		イナモリソウ								N-III

表 2-2-16(2) 調査対象地域において生育の可能性のある注目すべき種

No.	科名	種名	選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
79	クマツツラ	カリガネソウ							NT
80	シソ	タチキランソウ						NT	NT
81		マネキグサ						NT	NT
82		ミゾコウジュ						NT	NT
83		ヤマジノタツナミソウ							VU
84		ホナガタツナミソウ							N-III
85	ナス	アオホオズキ						VU	NT
86		ヤマホオズキ						EN	EN
87	ゴマノハグサ	イズコゴメグサ						EN	VU
88		サツキヒナノウスツボ							N- I
89		オオヒキヨモギ						VU	NT
90		イヌノフグリ						VU	NT
91	ハマウツボ	キヨスミウツボ							N-III
92	タヌキモ	イヌタヌキモ						NT	VU
93		ムラサキミミカキグサ						NT	VU
94	スイカズラ	ヤマヒョウタンボク							N-III
95	レンブクソウ	レンブクソウ							N-III
96	マツムシソウ	ナベナ							N-III
97	キキョウ	イワシャジン							N-III
98		ツルギキョウ						VU	VU
99		シブカワニンジン							N- II
100		サワギキョウ							N-III
101		シデシャジン							N-III
102		キキョウ						VU	VU
103	キク	ワタムキアザミ						VU	NT
104		イズハハコ						VU	NT
105		ハマバノギク							N- I
106		ホソバナニガナ						EN	VU
107		ノニガナ							N-III
108		カラニガナ						NT	NT
109		ホクチアザミ							N- II
110	オモダカ	アギナシ						NT	VU
111	トチカガミ	スブタ						VU	VU
112	ヒルムシロ	ヒロハノエビモ							N- I
113	アマモ	コアマモ							NT
114	イバラモ	サガミトリゲモ						VU	VU
115		イトトリゲモ						NT	VU
116		イバラモ							N- I
117	ユリ	ヒメニラ							N-III
118		カタクリ							N-III
119		アマナ							N-III
120	ヒガンバナ	オオキツネノカミソリ							N-III
121	キンバイザサ	コキンバイザサ							N-III
122	ミズアオイ	ミズアオイ						NT	VU
123	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ							N-III
124	イグサ	イヌイ							N- I
125	ホシクサ	シラタマホシクサ						VU	VU
126		クロホシクサ						VU	EN
127		ゴマシオホシクサ						EN	EN
128	イネ	ヒメコヌカグサ						NT	NT
129		ミギワトダシバ						VU	VU
130		コウヤササ							N-III
131		ウンヌケモドキ						NT	VU
132		ウンヌケ						VU	VU
133		キダチノネズミガヤ							N- I
134	サトイモ	ミツバテンナンショウ							N-III
135	ミクリ	オオミクリ						VU	VU
136		ミクリ						NT	NT
137		ナガエミクリ						NT	NT
138	カヤツリグサ	エゾウキヤガラ							N-III
139		イトテンツキ						NT	VU
140		ヤマアゼスゲ							N-III
141		ニシノホンモンジスゲ							N- II
142		ヒメアオガヤツリ							N-III
143		シロガヤツリ							N-III
144		マシカクイ							N- II
145		コマツカサススキ							N-III
146		マツカサススキ							N-III
147		カガシラ						VU	VU
148		ケシシユガヤ							N-III
149	ラン	シラン						NT	NT
150		マメヅタラン						NT	NT
151		ムギラン						NT	NT
152		ミヤマムギラン						NT	NT
153		エビネ						NT	NT
154		キンセイラン						VU	EN
155		ナツエビネ						VU	VU
156		キンラン						VU	NT
157		カンラン						EN	CR

表 2-2-16(3) 調査対象地域において生育の可能性のある注目すべき種

No.	科名	種名	選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
158	ラン	ナギラン						VU	VU
159		マヤラン						VU	EN
160		クマガイソウ						VU	VU
161		セッコク							NT
162		タシロラン						NT	NT
163		ハルザキヤツシロラン						VU	VU
164		クロヤツシロラン							NT
165		アケボノシユスラン							N-III
166		ベニシユスラン							N-III
167		シユスラン							N-III
168		ムカゴトンボ						EN	CR
169		サギソウ						NT	VU
170		ミズトンボ						VU	VU
171		ヤクシマアカシユスラン						VU	EN
172		エンシユウムヨウラン							VU
173		ウスギムヨウラン						NT	NT
174		ヒメフタバラン							N-III
175		アオフタバラン							N-III
176		アリドオシラン							N-III
177		フウラン						VU	VU
178	ガンゼキラン						VU	CR	
179	ヤマトキソウ							VU	
180	ムカデラン						VU	VU	
181		ヒトツボクロ						N-III	
計	71科	181種	0種	0種	0種	0種	0種	84種	179種

②植生

1) 現存植生

調査対象地域の現存植生は、図 2-2-10 に示すとおりである。

調査対象地域の植生は主に「スギ・ヒノキ・サワラ植林」、「アカマツ群落 (VII)」、「果樹園」である。

対象事業実施区域周辺の植生は主に「アカマツ群落 (VII)」、「スギ・ヒノキ・サワラ植林」、「シイ・カシ二次林」である。

2) 特定植物群落

調査対象地域における特定植物群落の状況は表 2-2-17 及び図 2-2-11 に示すとおりであり、3 箇所の特定植物群落がある。

なお、対象事業実施区域及びその周辺に特定植物群落はない。

表 2-2-17 特定植物群落の状況

No.	名称	所在地	指定状況
①	県立森林公園のアカマツ林	浜北区根堅	E
②	高根金刀比羅神社のシイ林	浜北区根堅	E
③	観音山学術参考保護林	北区引佐町	A

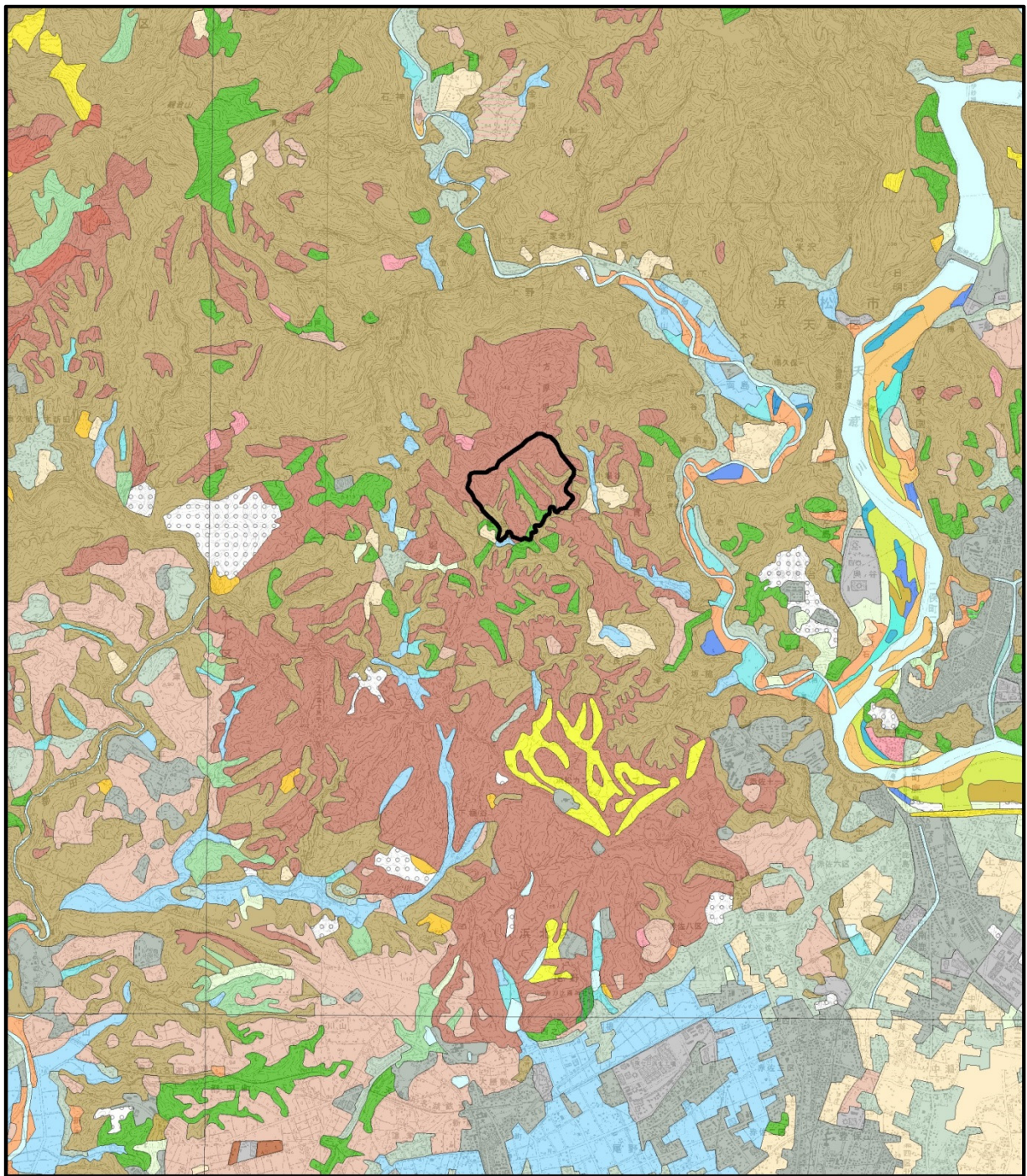
注) 指定状況の記号は、選定基準を示す。選定基準は、以下のとおりである。

- A: 原生林もしくはそれに近い自然林
- B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
- F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H: その他、学術上重要な植物群落または個体群

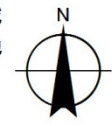
出典: 「環境省生物多様性情報システム (「第 2 回自然環境保全基礎調査」、「第 3 回自然環境保全基礎調査」、「第 5 回自然環境保全基礎調査」)」 (環境省ホームページ)

3) 今守りたい大切な自然

調査対象地域に「まもりたい静岡県の野生生物 ー 県版レッドデータブック ー (植物編)」 (平成 16 年、静岡県) において選定された「今守りたい大切な自然」に該当する箇所はない。

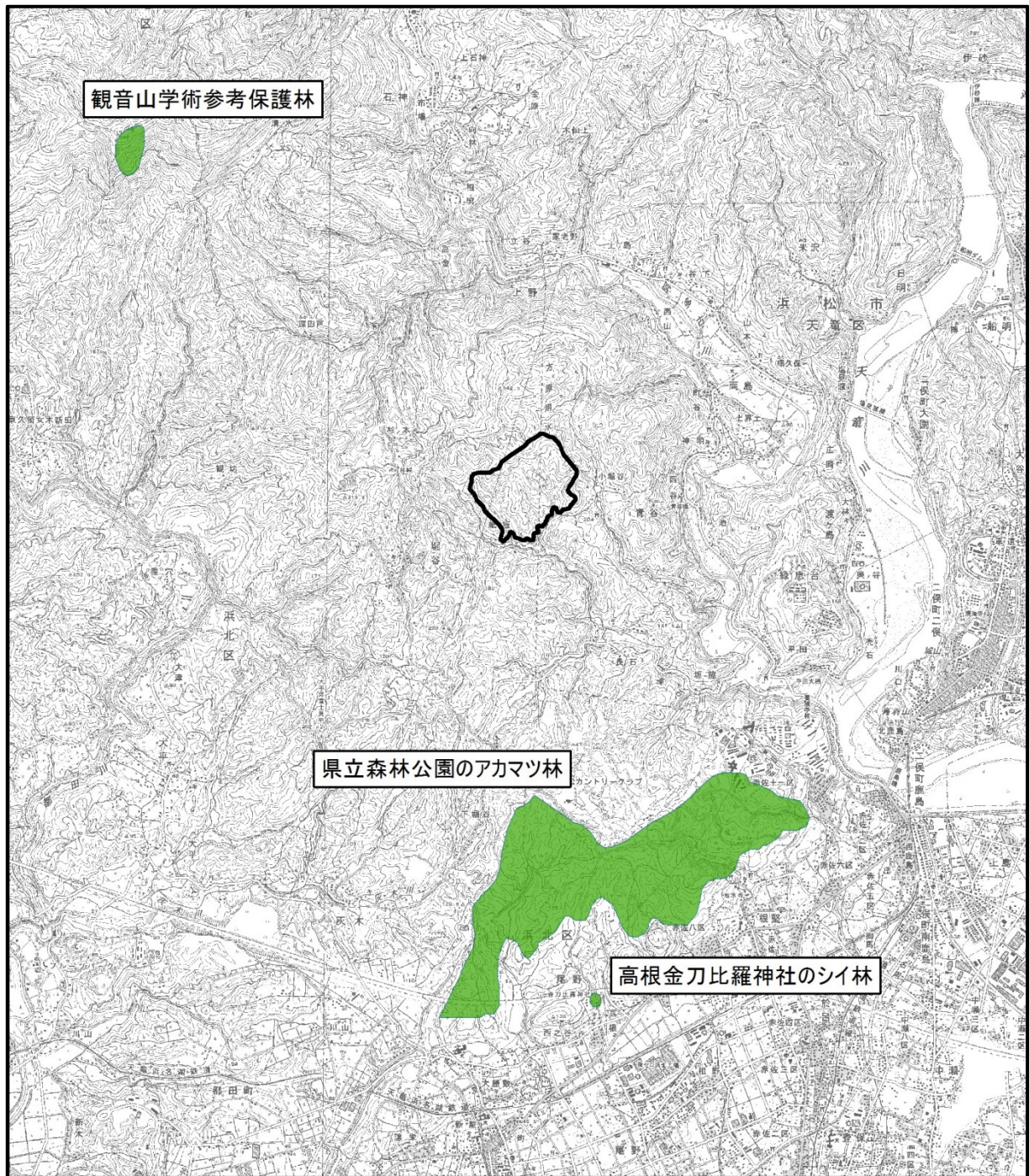


- | | | |
|---------------|------------------|-------------------|
| :対象事業実施区域 | ツルヨシ群集 | 水田雑草群落 |
| ルリミノキーイチイガシ群集 | オギ群集 | 放棄水田雑草群落 |
| ミズバイスダジイ群集 | カワラハハコヨモギ群団 | 市街地 |
| ヤナギ高木群落(VI) | ヒロハドウダンツツジアカマツ群落 | 緑の多い住宅地 |
| ヤナギ低木群落(VI) | スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| ドクウツギアキグミ群集 | アカマツ植林 | 工場地帯 |
| シイ・カシ二次林 | 外国産樹種植林 | 造成地 |
| コナラ群落(VII) | 竹林 | 開放水域 |
| アカマツ群落(VII) | ゴルフ場・芝地 | 自然裸地 |
| 低木群落 | 路傍・空地雑草群落 | |
| ススキ群団(VII) | 果樹園 | |
| 伐採跡地群落(VII) | 茶畑 | |
| ヨシクラス | 畑雑草群落 | |



0 0.5 1 2 km

図 2-2-10 現存植生図



- : 対象事業実施区域
- : 特定植物群落

出典：「環境省生物多様性情報システム」
 (「第2回自然環境保全基礎調査」、「第3回自然環境保全基礎調査」
 「第5回自然環境保全基礎調査」)
 (環境省ホームページ)

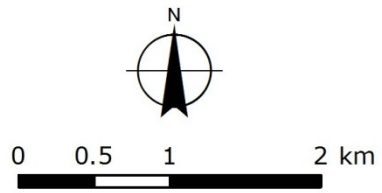


図 2-2-11 特定植物群落の位置

③巨樹・巨木林

調査対象地域における巨樹・巨木林の状況は表 2-2-18 及び図 2-2-12 に示すとおりであり、20 本の巨樹・巨木林があり、そのうちの 4 本はいずれも静岡県又は浜松市の天然記念物に指定されている。

なお、対象事業実施区域及びその周辺に巨樹・巨木林はない。

表 2-2-18 巨樹・巨木林の状況

No.	樹種(名称)	所在地	幹周 (m)	樹高 (m)	備考
1	ヒノキ	天竜区上野	3.70	38.0	
2	スギ	天竜区両島	5.70	27.0	
3	スギ	天竜区米沢	3.30	45.0	
4	イチイガシ	天竜区米沢	6.00	42.0	天然記念物(県指定)
5	ムクノキ	天竜区米沢	3.70	23.0	
6	スギ	天竜区船明	4.60	29.0	
7	スギ	天竜区船明	8.70	32.0	
8	スギ(船明の二本スギ)	天竜区船明	4.60	29.0	天然記念物(市指定)
9	クスノキ	天竜区渡ヶ島	8.00	36.0	天然記念物(市指定)
10	スギ	天竜区諏訪	3.20	33.0	
11	スギ	天竜区諏訪	4.70	37.0	
12	スギ(男女スギ)	天竜区二俣	3.20	33.0	
13	スギ(男女スギ)	天竜区二俣	3.70	37.0	
14	イチヨウ	天竜区二俣	4.20	26.0	
15	スギ	天竜区二俣	4.40	27.0	
16	イチヨウ	浜北区根堅	3.60	24.0	
17	イチヨウ	浜北区根堅	3.70	24.0	
18	エノキ	浜北区	3.00	28.0	
19	ケヤキ	浜北区尾野	3.98	22.0	
20	ケヤキ(尾野のケヤキ)	浜北区尾野	3.98	22.0	天然記念物(市指定)

出典：「環境省生物多様性情報システム(「第4・6回自然環境保全基礎調査」)(環境省ホームページ)

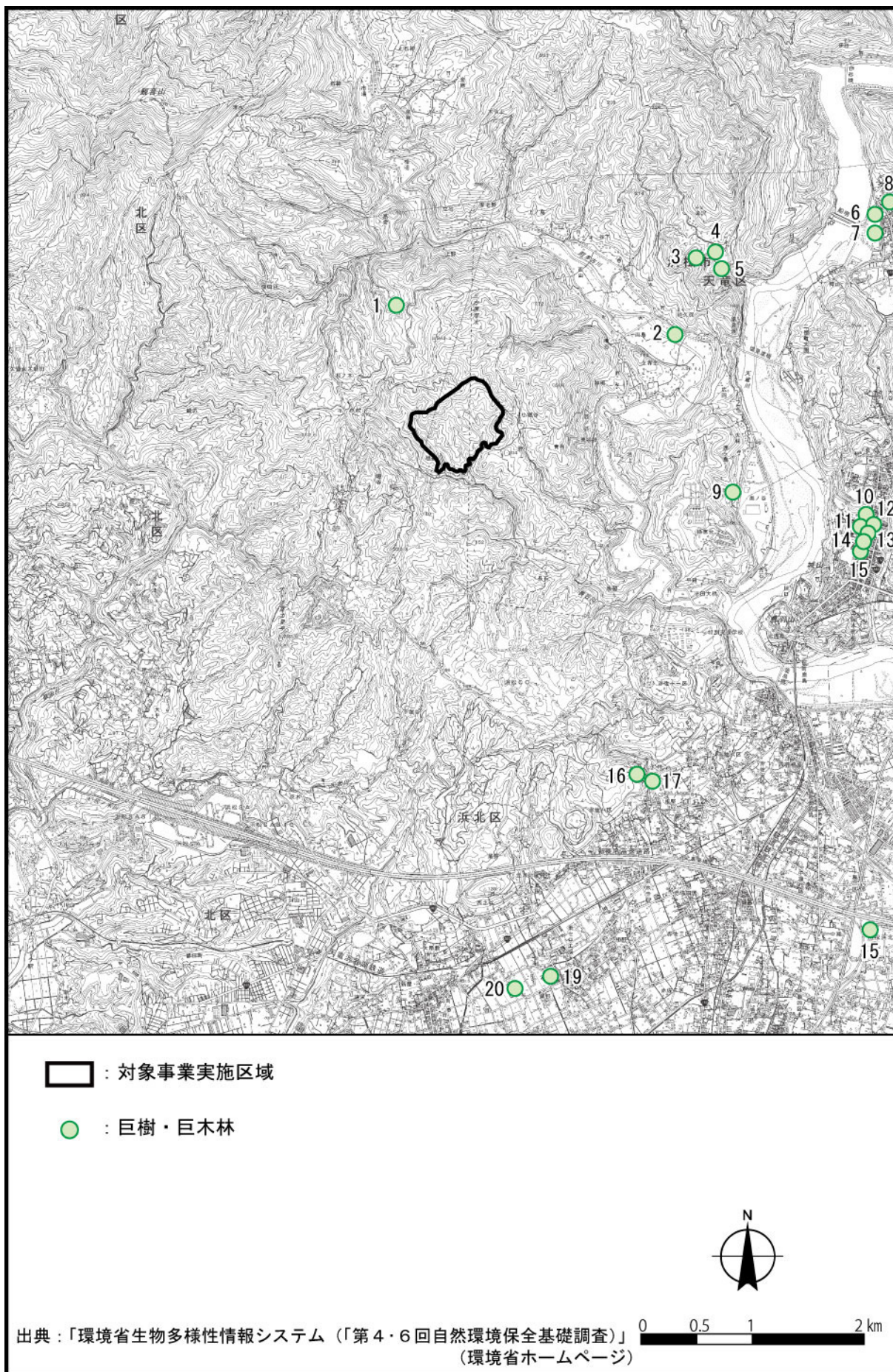


図 2-2-12 巨樹・巨木林の位置